



## 【ピンクアイ】

### はじめに

自分が診た症例の紹介をしようと思います。ピンクアイ(伝染性角結膜炎)と呼ばれる、牛の眼が赤くなる病気です。夏から秋にかけて多発する、ハエが細菌(*Moraxella bovis*)を運ぶことが原因でなります。牛はまぶたを開けられなくなり、涙を流します。時間の経過とともに眼が白くなっていきますが、牛自体は元気です。放置し続けると、失明の可能性もあります。致命的な病気ではありませんが、搾乳牛の場合、乳量低下の原因にもなります。

### 治療法

治療法は何種類もありますが、2つ紹介したいと思います。

- ① **点眼法**: 1日2回乳房炎軟膏を3,4滴ずつ症状が回復するまで点眼を行います。

例)ニューサルマイSを1週間行い、改善なければOTC軟膏1週間、さらに改善なければタイニークを1週間行います

→症状回復まで4~20日と、**最高20日**もの期間を治療に要します。時間はかかるが農家さんでも容易に行えます。症状が重篤であると治癒は難しいです。

- ② **眼球結膜下注射法**: 今回行った方法です
- 該当牛を保定、少量の鎮静をかけます
  - 眼瞼結膜にOTC注10%を5ml、数箇所にかけて投与します
  - 瞬膜フラップ法**: 眼瞼結膜と瞬膜(第三眼瞼)を縫合→瞬膜で角膜を覆うことで角膜を保護し、外的刺激や乾燥から守り、治癒が早まります
  - 眼瞼(まぶた)縫合**: さらなる感染の予防のためです
  - ドレープで眼をおおって2週間後に様子を見ます

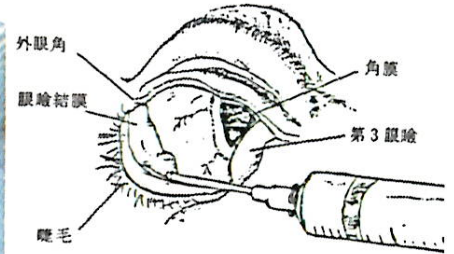


図2 眼瞼結膜下注射法

### 治療の成果

- ② の治療を行った2週間後の牛です。

写真では見づらいですが、少し腫れはあるものの、眼の色が戻って治っているのがわかります。

点眼法に比べ、技術は必要なものの、手間や期間を考慮すると本法の方が早い治癒が望めます。



### 他の疾患との鑑別

同じような眼の症状が基本的に両眼ともに発生し、全身症状(発熱、発咳、膿性鼻汁等)を伴う病気として、牛伝染性鼻気管炎(IBR, ウイルスによる呼吸器疾患)があります。肺炎に進行することもあります。ワクチンにより予防されている方が多いと思いますが、治療法としては、全身症状に合わせた肺炎の治療、消炎剤の投与です。

### さいごに

今回は育成牛でしたし、点眼法のために毎日牛を捕まえて治療するのはかなり一苦労かと思えますので、一度の治療で治るのはかなり楽です。ハエが発生するこれからの季節で多発することもあるかと思えます。発生した際には是非相談していただければと思います。宜しくお願ひ致します。

小方可奈江



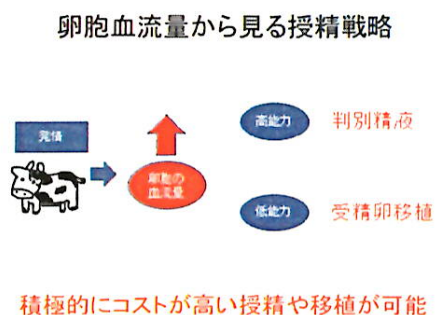
Total Herd Management Service

去年の個体販売が高かった時期から、今の F1 と和牛の平均価格は約 30~35%程度価格が落ちてきています。販売価格が落ちてくると安い精液や受精卵を使用しがちですが、しかし最高価格付近の落ち込みを見てみると約 25%程度です。また最低価格付近の落ち込みは約 45%程度とかなり落ちています。この事から考えると、販売価格が落ちている今だからこそ精液や受精卵は、血統に拘り子牛の健康状態に気を付ける事が、結果的に個体販売価格の低下を抑える事に繋がると考えられます。

## 卵胞血流量から見る授精戦略

判別精液や受精卵移植が当たり前に行われるなか、年々繁殖に掛かるコストは高くなる一方です。その中でも市場で高く売れる血統の和牛受精卵やハイインデックスのホル受精卵などは受精卵の価格が高く積極的に移植する事は難しいと思います。しかし受胎率を求め過ぎる事で、黄体を選び移植を中止してしまうと発情の見逃しと同じ事になり妊娠率の低下を招いてしまいます。

図 1



### 卵胞血流量が良い経産牛に移植

発情時の卵胞血流量が△↑○に絞って移植に向けてる事を100頭牛群のC農場で半年間実施してみた

○	2頭	2頭受胎	受胎率100%
↑	5頭	4頭受胎	受胎率80%
△	8頭	4頭受胎	受胎率50%

移植に向けた頭数 17頭中2頭中止 移植率88%  
 全体で15頭移植 10頭プラス 受胎率67%

そこで図 1 の農場で卵胞血流量が高い時に移植に向けました。卵胞血流量が高いと良い黄体が出来やすいので、移植に向けた牛は移植する（2頭は乳房炎と蹄病で中止）事ができます。結果、移植率（88%）を低下させずに 67%と受胎率を上げる事ができました。違う農場では、卵胞血流量を○だけに絞って 20 頭のホル移植をした時の受胎率は 90%でした。

## まとめ

発情牛には積極的に授精や移植をして妊娠率を下げない事が一番大切な事です。なので、カラードップラーを使い農場全体の受胎率を上げる事は難しいですが、授精や移植のコストを抑えながら効率的に収益を上げる事は可能だと考えられます。